資料４

町民コミュニティ部会　第３回にむけた論点整理

平成 27 年 10 月 27 日

２．町民同士が連絡を取り合うことができる仕組みの構築

町の取り組み	部会の意見
①電話帳作成について町民ニーズを踏まえ必要性を検討	
②気軽に連絡できる情報端末**（ﾀﾌﾞﾚｯﾄ等）活用の検討**	**《タブレットは便利に使っている》** ● タブレットはLINEやTwitterもできるので活用している。 ● タブレットは使い勝手がよく、ストリートビューやナビを活用している。 ● タブレットのアクセスの利用制限の限度を引き上げてほしい。 ● 町のホームページで町民の声をよく見ている。 ● タブレットのネガティブ情報を拒絶して見ない人もいる。 **《タブレットの利用者をもっと増やす》** ● タブレットは非常に便利に使っているが、はたしてどのくらいの人が使いこなしているのか。 ● 勉強会を３回ほど実施したが、今は集まらなくなった。 ● 勉強会は参加者を待っているのではなく、できる人が声をかけるとよい。

３．町からの情報提供の円滑化・充実化

町の取り組み	部会の意見
①知りたい情報をより多く提供できるように、**広報誌等を充実**させる	**《町の情報をもっと伝えて欲しい》** ● 町の情報が伝わらない。この会議でも、初めて見る情報が多い。
②避難先での町民の活動状況等を提供する**ふるさと絆通信**	
③**町のﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ**構成などわかりやすいものに適宜直す	**《町のホームページの見やすさについて》** ● 町のホームページで町民の声をよく見ている。（再掲）
④町のﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞの高度情報化	
⑤WEB カメラによる**町内映像**をﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞにて提供	
⑥**ｿｰｼｬﾙﾒﾃﾞｨｱ**を活用したｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝの仕組みを構築	**《ソーシャルメディアの活用方法》** ● タブレットは LINE や Twitter もできるので活用している。（再掲） ● タブレットは使い勝手がよく、ストリートビューやナビを活用している。（再掲）

４．双葉町の歴史・伝統・文化の記録と継承

町の取り組み	部会の意見
①ダルマ市等の**ふるさと祭り**の開催支援	**《地域をこえて双葉のみんなが参加する祭りにする》** ● 皆が参加するような新しい形のダルマ市を希望する。現在は参加する人が減っているので、誰もが参加できる参加型のダルマ市がよい。 ● コミュニティがバラバラになったので、本来の地域毎の祭りができていない。 ● 祭りの継承もしているが、かつての地域の人が集まってのイベントはなかなか難しい。そこに行けばみんなに会えると思い、頑張って運営している。
②**子ども・若者**が歴史・伝統・文化にふれあい、学べる場の支援	**《伝統芸能を子ども達に伝える》** ● 伝統芸能の継承として「集まれ！ふたばっ子」をやった。山田の「じゃんがら」はとてもよかった。もっと（出演機会を）増やしてほしい。 ● 「せんだん太鼓」は、双葉ワールドで震災後すぐに活動した。双葉の学校でも教えている。双葉の方がいわきで教えている。 ● 「せんだん太鼓」は、総合学習の中で保護者やメンバーが教えている。
③**歴史・伝統・文化**を学ぶ場の確保	
④定期的な**芸能祭**の開催	
⑤各種イベントへの**出演機会の確保**	

５．避難先住民との交流促進

町の取り組み	部会の意見
①**避難先自治体等と連携**し、交流会等の開催を促進	**《避難先に長くいても、普通の生活を取り戻せない》** ● 避難先に長くいても、故郷は双葉町だということ。 ● 避難先は長くいても、ふるさとにはなり得ない。（双葉の時のコミュニティ） ● 福島県の人からでも差別を受ける。お金をもらっているだろうと言われたり、車を傷つけられたりする。 ● いつになったら避難民（という意識）が頭から離れるのか。 ● 心の復興の問題はずっと続く。終わりがないように思う。 ● これをすれば普通の生活だというのがない不安。 ● 復興はなかなか難しいが、人としての復興は早くしたい、避難民というのがいやだ。 ● 復興に終着点はない。 ● 物理的な復興はなかなかできないが、人間として復興したい。
②ｲﾍﾞﾝﾄ（祭りや催事）への**町民の積極的参加**を促進	**《避難先地域のイベントに参加する》** ● ラジオ体操を機に、双葉、楢葉、大熊の人と交流した。5 分ほど話したが、一番楽しかった。（郡山） ● 埼玉では、双葉町民と避難先住民の文化交流ができている。
③自治組織等が**避難先住民と交流する機会**への支援	
④**復興支援員**を活用し、地域住民とのｺﾐｭﾆﾃｨづくりの人材の確保	

６．震災・事故の教訓の記録と伝承

町の取り組み	部会の意見
①**記録誌編纂**に向けた体制整備と町民協力による記録の収集	
②震災・事故の教訓の**展示施設・研究施設**の設置を検討	

７．教育環境の確保

町の取り組み	部会の意見
①**町立学校**（幼稚園、小学校、中学校）の再開	
②町独自の新たな**教育方針・教育提供内容**を提示	
③子供たちの**「つどいの場」**の提供（集まれ！ふたばっ子）	